

コープくらしの情報紙「HELLOコープ」夏号（159号）を発行しました。「HELLOコープ」は、いわて生協広報室のスタッフが県内各地へ出向いて取材し、作っています。誌面ではお伝えしきれなかった「取材こぼれ話」を紹介します！

☆「これいいね！ラブコープ商品」

6月初旬、アイコープポークウィンナーの製造風景を撮影するために、紫波町のいわちくさんへ。アイコープの加工肉は発色剤を使わないので、その日の朝一番に製造します。そのため**現場入りは朝7時!!**

まずは準備です。①工場見学用白衣・マスク・帽子を身に着け、②全身を粘着ローラーがけ（付着物の除去）、③きっちり手洗い、④エアシャワー室を通過して、やっと加工場に入ることができます。

加工場ではすでに練りの工程に入るところです。聞けば、**ミンチ工程は朝6時から始まっていた！**7時台は練りと充てん。機械で充てんしますが、細かいところはやはり人の手が必要です。みなさんテキパキと作業をすすめます。



▲手直ししたり、端を結んだり。



▲この日は2千パック相当分を製造！

途中、ウィンナーの包装作業撮影のために包装エリアに移動したり、次の工程待ちのため、入退室を4回繰り返しました。もちろん、そのたびに①～④を行って、**加工場に入ります**。衛生管理にぬかりはありません。



▲スモーク中のウィンナー。

シャワーで冷却したウィンナー。▶



昼ごろに製造工程の撮影が終わり、それから表紙の撮影に入りました。

鉄板のステーキ皿が地味に重い！加工場を案内した後の撮影にもかかわらず、**笑顔！**でご協力いただきました。

いわちくのみなさん、本当にありがとうございました！！



「楽育しましょ!」～暑さから子どもを守るために 知っておきたい対処法～

乳幼児に多い「水の事故～特にお風呂場での事故」の予防、「食中毒」の対処法など、日本赤十字社岩手県支部の下本佳子さんにお聞きしました。

お風呂場での溺水に注意!

乳幼児の水に事故で多いのは、家庭の中でも特にお風呂場での事故です。乳幼児は頭が大きくて手の力がありませんので、コップ一杯程度の水でも起き上がれずに亡くなってしまいます。

災害に備え浴槽に汲み置きする際は、風呂場にカギをかけておきましょう。「すぐに使おうと思って洗面器に水を入れておいたのだけれど…」という、そのわずかな時間でも事故になってしまいます。

子どもたちだけでお風呂に入らせることも危険です。必ず大人が目を光らせましょう。



子どもの肌は敏感

子どもの皮膚は弱く、新陳代謝が活発で汗をかきやすいため、すぐにあせもになります。毎日シャワーだけでも浴びせて、清潔に保つことが大事です。症状がひどい場合には、市販薬に頼るよりも病院を受診しましょう。

ノロやロタは次亜塩素酸ナトリウムで消毒を

夏になると増加するのが食中毒です。生ものはすぐ冷蔵庫に入れ、時間が経ったものは食べないのが基本です。まな板や食器などは、菌がどこに付いているかわかりませんので、こまめに洗う習慣をつけましょう。

ノロウィルスやロタウィルスには、アルコール消毒が効きません。塩素系漂白剤などに含まれる次亜塩素酸ナトリウムが有効です。吐いたものや下痢便、赤ちゃんのおむつを処理する場合は、使い捨てのエプロン、マスク、メガネ、手袋を着用し、ポリ袋に入れ密閉して捨てます。吐いたものは、周囲に飛び散らないよう包み込むように拭き取り、吐いた場所を※消毒液Aで拭きます。消毒が不十分だと、乾燥後にウィルスが空気中に浮遊し二次感染につながります。また、ドアノブやトイレの便座などは、※消毒液Bで拭きます。ペーパータオルを使う、感染者の衣類は洗濯機で洗わないなどで、二次汚染を防ぎましょう。



※消毒液A：塩素系漂白剤 10mℓ+水 500mℓ

消毒液B：塩素系漂白剤 4mℓ+水 500mℓ

(ペットボトルのキャップ 1 杯=5mℓ)